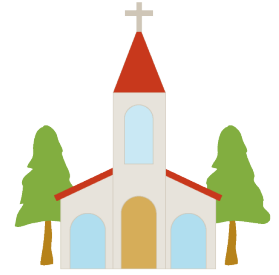


あなたの教会は**災害**の備えができていますか?!

災害によって、いつ・どのような被害がもたらされるかわかりません。
しかし、教会がいつも眼をさまし、あらかじめ備えておくことで
被害を軽減し、回復を早め、地域に仕えることができます。



災害の備え 1

どのような被害を受ける可能性があるか予測しましょう。

あなたの教会がある周辺・地域にはどのような危険がありますか。具体的に調べましょう。
危険を解消できるものについては対策をおこないましょう。

自治体のホームページから調べることができます。

過去に起きた災害から危険を知ることができます。

教会の建物の耐震状況、家具、備品の転倒、ブロック塀の倒壊などの危険箇所はないか。

災害時の電気・ガス・水道・電話・ネットなどの状況。

災害の備え 2

災害を想定した計画をつくりましょう。(災害によって対応は変わります)

避難経路、避難場所を確認する

安否確認、連絡網、連絡先リストをつくる

災害時の役割を明確にし担当者を決める

備蓄物資を蓄える

定期的に訓練と学びを行う



災害の備え 3

被災時に教会が地域に仕える可能性を検討しましょう。

帰宅困難者一時休憩所

物資支援 炊き出し

ボランティアセンター

一時避難所

心のケア

救援活動 など



災害の備え 4

被災した時に助け合い支え合うネットワークに加わりましょう。

地域教会のネットワーク

所属の教団・グループのネットワーク

超教派の災害ネットワーク (DRC など)

災害支援団体のネットワーク (クラッシュ、サマリタンズパースなど)

地域公共団体のネットワーク (自治体、社会福祉協議会、町内会など)



どのような被害を受ける可能性があるか予測しましょう。

あなたの教会がある周辺・地域にはどのような危険がありますか。具体的に調べましょう。

地震、火災、津波、豪雪、台風、浸水、高潮、強風、集中豪雨、土砂災害、火山噴火など

1.自治体のホームページから調べることができます。

2.過去にはどのような災害が起きていますか。

3.教会所在地の地形から危険性を調べましょう。

海、川、山、湖・池・沼、崖、活断層、埋め立て地、地盤など

4.教会周辺の施設から危険性を調べましょう

工場、発電所、基地、燃料備蓄基地など

5.教会に内在する危険を調べましょう。

危険を解消できるものについては対策をおこないましょう。

教会の建物の耐震状況

家具、備品の転倒

ブロック塀の倒壊

火災報知器の設置状況

災害時の電気・ガス・水道・電話・ネットなどの状況

いつ、どのような災害が起こるか私たちには分かりません。しかしあらかじめ災害リスクを認識することで、いざと言う時に役に立つ効果的な備えができます。



災害を想定した計画をつくりましょう。(災害によって対応は変わります)

1. 避難経路、避難場所を確認する

教会が被災して避難しなければならない場合の避難経路、避難場所を確認してください。
自治体によって定められています。

2. 安否確認連絡網、連絡先リストをつくる

災害時の教会員の安否を確認する連絡網・連絡手段をつくってください。
電話が使えないことも想定してください。災害伝言ダイヤルなど

災害時に連絡するべきところのリストをつくってください。
教団災害担当部局、近隣教会、援助団体など

3. 災害時の役割を明確にし担当者を決める

安否確認担当、物資調達・配布担当、救護担当、ボランティア担当など

4. 備蓄物資を備える

5～6日分の物資が必要です。
何を用意するか

何人分用意するか



5. 定期的に訓練と学びを行う

避難訓練 安否確認訓練 など

計画通りに災害は起こりません。どんな災害が起きても柔軟に対応できるように、イメージを豊かにし具体的に計画を立てましょう。



被災時に教会が地域に仕える可能性を検討しましょう。

1. 教会に利用可能な施設・建物・部屋・設備・資材がどれくらいありますか

2. 教会の施設などを用いてできることはありますか

帰宅困難者一時休憩所

一時避難所

支援物資倉庫

ボランティアセンター

物資配布所

給食配布所

遺体安置所

など



3. 教会のメンバーで支援の働きに奉仕できる人はどれくらいいますか。

資格や技能を持っている人はいますか。医者、看護婦、大工、カウンセラー、CS教師など

4. 教会のメンバーによってできる支援はありますか

物資支援

炊き出し

心のケア

医療ケア

子どもケア

救援活動

作業活動

など



何を持って隣人を愛し仕えることができるか、教会として考え計画しましょう。

計画していても教会が甚大な被害を受けてしまったら、支援まで手が回らないこともあります。

その時は無理をせず、支援を受ける側に回りましょう。



被災した時に助け合い支え合うネットワークに加わりましょう。

一人では、一つの教会では、できることに限界があります。

災害が起こる前に、声を掛け合い、助け合いのネットワークをつくりましょう。

1. 地域教会のネットワーク

災害直後は外部からの支援は入って来られません。特に東京都の場合は条例で決められています。そんな時に近くの教会が助け合い支え合うことができれば、大きな助けになります。近隣の教会の先生とあらかじめ災害時のための連絡先を交換し、ネットワークをつくりましょう。

あなたの教会の近隣にある教会は

2. 地域公共団体のネットワーク（自治体、社会福祉協議会、町内会など）

教会がある地域の自治体、社会福祉協議会、町内会では防災対策をとっています。教会として情報を共有し、協力・連携することができるかもしれません。まずは話を聞きに行ってみましょう。

3. その他のネットワーク

所属の教団・グループのネットワーク

超教派の災害ネットワーク（DRC など）

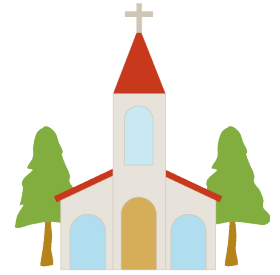
災害支援団体のネットワーク（クラッシュ、サマリタンズパースなど）

大切なのは、起こる前につながっておくことです。起こってからでは大変です。

いざという時「助けて！」と言える、「大丈夫ですか？」と聞く、そう言うつながりをつくりましょう。

わたしの教会の災害の備え（まとめ）

教会



災害の備え 1

わたしの教会にある危険は



災害の備え 2

わたしの教会の災害を想定した計画は



災害の備え 3

わたしの教会が被災時に地域に仕える可能性は



災害の備え 4

わたしの教会が被災した時に助け合い支え合うネットワークは

備えは、忘れないで実行しましょう。

記入日

記入者